

酒類・加工食品業界の業務効率化と標準化推進をめざす

# FINE FINET

ファイネット発行

2023

Vol.63

September

[FINET User's Voice]

## 得意先様へのEDI推進による 受注業務効率化の取り組み

オリオンビール 様

[FINET INFORMATION]

- PSTNマイグレーションに伴う  
通信手順の移行について
- Internet Explorerのサポート終了に伴う、  
ブラウザ切り替えのお願い
- インターネット通信における  
TLSバージョン切り替えのお願い



## オリオンビール株式会社 様



写真：(左から)山田 哲郎 様、新里 紹太 様、服部 直子 様、溝口 義純 様

## 得意先様へのEDI推進による 受注業務効率化の取り組み

得意先様へEDIを推進し、受注業務の効率化に取り組まれているオリオンビール様。  
取り組みの背景や効果、今後の方針をうかがいました。

## オリオンビール株式会社

営業本部 業務店部  
業務店二課長  
山田 哲郎 様

SCM部  
物流管理課  
服部 直子 様

経営管理本部  
ITソリューション部長  
溝口 義純 様

経営管理本部  
ITソリューション部  
新里 紹太 様

### EDI推進の取り組み

—はじめに貴社の事業概要についてお聞かせください。

溝口 弊社は1957年に創業者具志堅宗精ぐしけんそうせいが中心となり、「戦後沖縄の社会経済復興には第二次産業を興さなければいけない」という強い意志のもと設立されました。今日では、オリオンビールをはじめとした酒類清涼飲料事業のほか、観光不動産事業も展開しております。「オリオン」とは星座のオリオン座を指しており、オリオン座は南の星で沖縄のイメージにマッチすること、星は人々の夢やあこがれを象徴すること等から、1958年に一般公募によるビール名募集により「オリオン」が採用されました。「沖縄から、人を、場を、世界を、笑顔に。」をミッションに掲げ、沖縄と共に成長するオリオンビールを目指しています。

—貴社のEDI推進の概況についてお聞かせください。

溝口 弊社では2021年4月からファイネットの商品流通VANサービスを使った受注のEDI(データ交換)を開始しました。お得意先の皆様にはFAXや電話での発注からEDIに切り替えていただくようエリアごとに段階的

に依頼をしていきました。まずは2021年に沖縄本島の約60社、翌2022年には沖縄離島の約30社、2023年には沖縄県以外の約10社の得意先様とのEDI化を進めてまいりました。

現在(2023年5月時点)では約100社の得意先様からの受注をEDI化できしており、受注件数(明細件

数ベース)では90%以上がFAXや電話からEDIに変わりました。

—EDIを始められた契機はどのようなことですか。

服部 弊社では明細件数ベースで月間1万件以上の受注があり、EDIを導入する前は全てFAXや電話で受け付けておりました。そのため、基幹システムへの入力業務や受注返信のリファックスのほか、受注内容に不明点があれば確認のご連絡が必要になるケースもあり業務負荷が掛かっていました。また販路や商品の拡大にともなってこれらの受注業務の負荷も増大していくため、業務効率化が急務になっていました。



—EDI推進にあたってファイネットのサービスを選ばれた理由をお聞かせください。

新里 ファイネットの事は業界標準サービスとして耳にはしていましたが、実際にEDIを開始するにあたっては沖縄県外の一部と沖縄県内の得意先様にEDIの手段についてヒアリングを行いました。その結果、沖縄県外の得意先様はみなさんファイネットを利用しており、沖縄県内でもEDIを実施している得意先様についてはファイネットを利用して企業が最も多いという事が分かりました。これを踏まえてファイネットに決めたという経緯です。

また、ファイネットの商品流通VANサービスを利用すれば各得意先様と共通フォーマットでデータ交換することが可能です。そのため、受発注データを基幹システムに取り込む際も個別対応を最小化できます。



## EDI推進の準備

—EDI推進の具体的な取組み内容についてお聞かせください。

**新里** 先ほどのヒアリングによって、県内ではEDIの経験自体が無い得意先様がかなり多い事も分かりました。そのようなEDI未経験の得意先様に向けては、より簡易にファイネットをご利用いただけるようにWebEDIをお勧めする方針といたしました。

具体的には、WebEDIの卸向け発注機能にある「画面発注機能」を活用する事としました。これは弊社側でWebEDIに商品情報、取引先情報を予め各得意先様向けに登録しておくことで、得意先様側ではそこから商品と届け先を選択して、発注数量、納品日など一部の項目のみを入力する事で発注できる機能です。この機能によって得意先様側では特段のシステム対応などは不要ですし、FAXより簡易に発注内容を送信でき、送信履歴や弊社側での受信状況もWeb画面で確認いただけますので、リファックスのチェックも不要になります。

既にファイネットを利用している得意先様には、その得意先様なりの利用方法のままEDI接続が出来ますし、WebEDIを利用される得意先様でも基幹システムから発注データを取り出してアップロード送信する事も可能です。

**山田** EDI推進については、スタートの半年前の準備

段階から営業部門・IT部門・物流部門が継続的に連携しながら役割を分担して取り組みました。

営業部門では得意先様向けのEDI化依頼文書を発信し、各担当者が得意先様と個別に調整を行いました。IT部門では社内システム開発を担い、ファイネット利用開始2か月前から受発注データの連携テストを開始しました。他にもファ

イネットの各種説明資料等を元に、得意先様向けのファイネット申請手続きに関するマニュアルを作成しました。物流部門では社内の業務フローの整理などを行いました。

これら3つの関係部門が集まる週次ミーティングを継続的に行い進捗状況と課題を確認しながら取り組みを進めました。

各得意先様のファイネットへの利用申し込み状況についても、ファイネットの営業担当者から進捗を共有いただき、それを元に弊社の各部門が連携しながらフォローを行い、場合によってはファイネットからもフォローしてもらいました。

—EDI未経験の得意先様へのフォローはいかがでしたか？

**山田** 営業担当者がマニュアルを読みこんでWebEDIの使い方を把握したうえで、各得意先様に寄り添ってフォローしていきました。中には、パソコンを買ってもらってインターネット回線を引いてというところからフォローさせていただいた得意先様もありました。そうした活動で出てきた得意先様とのQ&Aについても社内共有を行いながら進めた事でスムーズなフォローに繋がれたのではないかと思います。

—取組み開始から3年間で90%のEDI化は素晴らしい成果ですね。

**山田** お得意先の皆様のご理解とご協力のお陰です。

**服部** 何よりもまず、毎日システムに手入力していた受注業務が自動化され、オペレーション担当部門の業務効率化が実現しました。EDI導入前は4~5名で1日かけて受注入力を行っていましたが、現在は1~2名で対応できるようになりました。受注入力業務が削減された分を別の仕事に割り当てる事が出来たのは大きな成果です。以前は繁忙期には受注入力を時間内に完了しなければならないためにランチも食べられない事がありましたが、今はそうした事は全く無くなりました。

**山田** EDI化を進める過程で改めて業務プロセスやルールを社内を確認する事が出来た事も大きいです。現在も例外となるケースが残っており、まだ完全に業務の標準化



ができたとは言えませんが、あるべき姿について関連部署間で認識合わせできたことは成果と言えるかもしれません。

## 今後の方針

— 今後のEDI拡大方針についてお聞かせください。

**新里** 引き続き受注のEDI化を推進し業務効率化を進めていきます。また、受発注データ以外のデータ種についても現在進めている基幹システムの改修後、活用を検討していきたいと考えています。

**山田** 得意先様からは、発注した後の入荷の確定情報が欲しいというご要望もありますから、出荷案内データの活用も考えてみたいと思います。

**新里** また次に注力したい業務効率化のテーマは、得意先様向けに発行する請求書の電子化です。2023年10月のインボイス制度、2024年1月の改正電子帳簿保存法への対応が迫っており、請求書の電子化は世の中で共通の課題です。まさにそうした背景から沢山

のサービスやツールが出回っています。ファイネットが2023年3月に開始したファイル配信サービスにも期待しており、他社のサービスやツールと比較しながらファイネットの優位性、利用メリットを見極めているところです。

— 最後にファイネットに期待することや課題などがあればお聞かせください。

**溝口** 先程話に挙げりました改正電子帳簿保存法、インボイス制度など、直近で予定されている法令対応について、ファイネットの加入企業がどのような対応を取られているのか等、業界共通の課題についての情報提供や情報交換の場があると大変ありがたいです。

たとえばメーカーが受発注データを利用している場合、受領注文書の電子保管の要件を満たすためにどのような対応が必要なのか。ファイネットに加入しているメーカーは1,535社(2023年5月末時点)ですから、同じ悩みを持つ企業がいると思います。そういった他社の取り組み状況が見えることで、業界全体の標準化、効率化が進んでいくのではないかと考えております。

— ご期待に沿えるよう引き続き取り組んで参ります。本日は貴重なお話をお聞かせいただき有難うございました。

## CORPORATE PROFILE

# Orion



- 代表者: 村野 一
- 資本金: 3億7,800万円
- 売上高: 217億円(2022年度)
- 従業員数: 247名
- 本社: 沖縄県豊見城市宇豊崎1-411
- 工場: 沖縄県名護市東江2丁目2番1号



## オリオンビール株式会社

1957年5月創業。ホテル2社、泡盛メーカー1社を子会社にもつ酒類清涼飲料事業と観光不動産事業からなる沖縄のビールメーカーです。

沖縄県産酵母によるビール「オリオン ザ・プレミアム」や、完全循環型大麦を活用した「オリオン ザ・ドラフト」、県産素材をふんだんに生かした酎ハイ、泡盛、もろみ酢などを日本全国・海外12か国・地域で展開しています。

# PSTNマイグレーションに伴う 通信手順の移行について

～全銀協TCP/IP手順をご利用のユーザー様へ～

## 全銀協TCP/IP手順のサポート終了について

東日本電信電話株式会社および西日本電信電話株式会社（以下、NTT東西）からのPSTNマイグレーションの公表を受け、かねてからご案内のとおり、全銀協TCP/IP手順のサポートを2023年11月末で終了させていただきます。

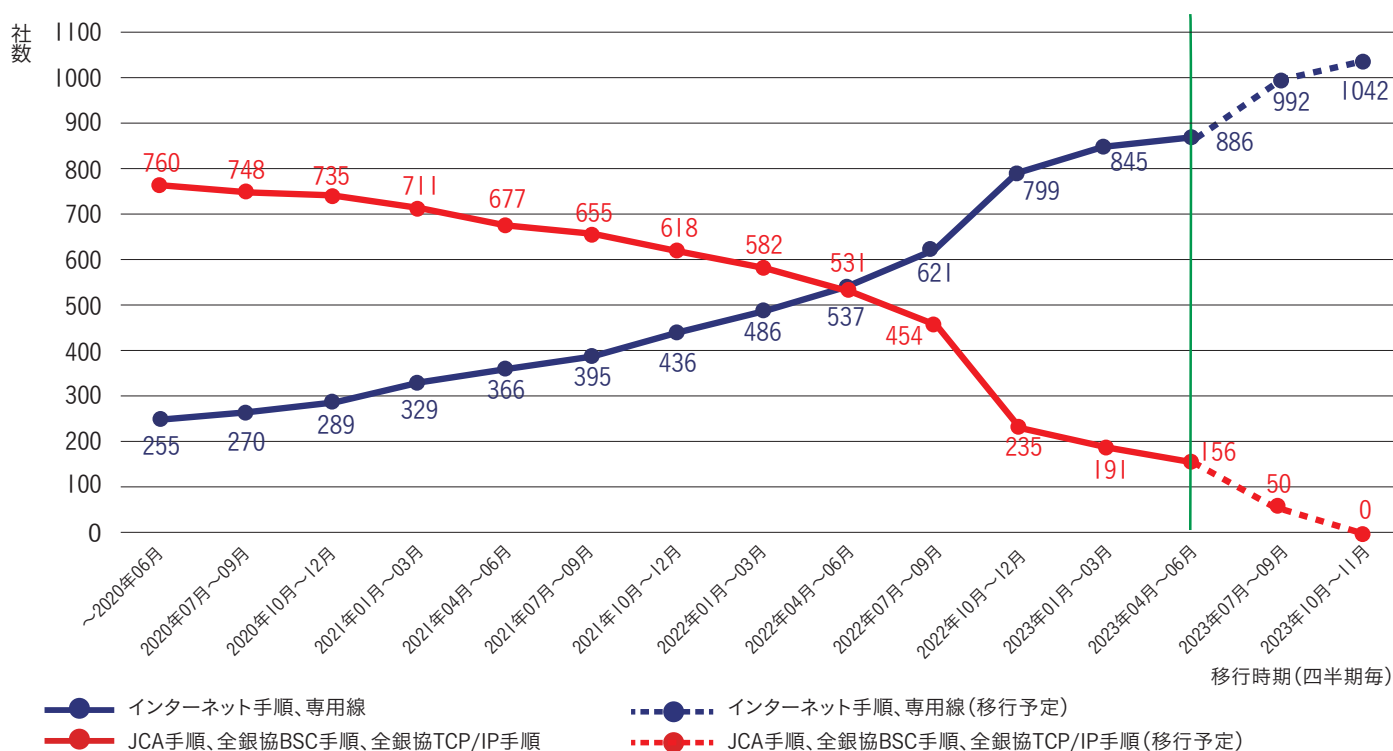
全銀協TCP/IP手順をご利用のユーザー様におかれましては、継続して弊社VANサービスをご利用いただくため、サポート終了までの間に「インターネット手順（JX手順、eXML MS 2.0手順、AS2手順、SFTP）」もしくは「専用線接続サービス※1」への移行をお願いいたします。

※1 専用線接続サービスは有償にてユーザー様拠点と弊社VANを接続するための独立した閉域ネットワークを提供するものです。専用線接続サービスではインターネット手順に加え、全銀協TCP/IP手順・広域IP網（従来のPSTN網ではなく、広域IP網を利用した全銀協TCP/IP手順）、FTPをご利用いただけます。

## 通信手順移行の進捗について


下図は、2023年6月末時点の集計における、通信手順移行の進捗状況と今後の移行予定を示したものです。

JCA手順、全銀協BSC手順のユーザー様はサポート期限であった2022年11月末迄の移行にご協力いただき、ありがとうございました。全銀協TCP/IP手順は2023年11月末がサポート期限です。事前にお伺いしている移行時期までに移行が完了していない場合、弊社よりご連絡を差し上げることもございますが、引き続き移行へのご協力をお願いいたします。



移行に際し、ご不明な点がございましたら、ファイネットヘルプデスクまでお問い合わせください。

お問い合わせ先

ファイネット ヘルプデスク  0120-091-094 (年中無休 7:30～23:00)

Email: fcs@support.finet.co.jp

## Internet Explorerのサポート終了に伴う、ブラウザ切り替えのお願い

Microsoft社では、2022年6月16日（日本時間）をもって、最後のバージョンであるInternet Explorer 11のサポートを終了しております。



Internet Explorer（以下IEという）はセキュリティ更新プログラムの提供がなくなり、セキュリティリスクが高まりますので、弊社Webサイトにおいても2024年6月を目途にIEのサポートを全面的に終了することといたしました。

IEをご利用されている場合は、Microsoft Edge、Google Chrome、Firefoxのいずれかのブラウザにお早めに切り替えをお願いいたします。ご利用端末のブラウザの切り替えに関する詳細は、貴社システムご担当者様にお問い合わせください。

## インターネット通信におけるTLSバージョン切り替えのお願い

TLS1.0/1.1の暗号化通信には脆弱性が存在し、第三者により通信の一部が解読されてしまう恐れがあることが判明しています。弊社ではインターネット通信におけるTLS1.0/1.1の暗号化通信の無効化を実施すべく、TLS1.2の通信への切り替えを推進しております。



1.0 ×

1.1 ×

1.2 ○

TLSはインターネット上の通信を暗号化する技術です。TLS1.0/1.1には脆弱性が存在するため、**TLS1.2以上が推奨**されています。

### [Host接続に際してのTLS通信について]

EDI環境におけるインターネット手順（JX手順、eXML MS 2.0手順、AS2手順）のTLS1.0/1.1の暗号化通信無効化は利用状況を踏まえて時期を検討いたしますが、2024年内目途での実施を予定しております。

そのため、TLS1.0/1.1を利用されている場合は、TLS1.2にお早めに切り替えいただきますようお願いいたします。

切り替えに際し、TLS1.2による暗号化通信が行えることをご確認いただけるテスト環境もご用意しております。

テストをご希望の場合はテスト環境の接続先URL等をお知らせいたしますので、ファイネットヘルプデスクまでお問い合わせください。

### [Webサイト接続に際してのTLS通信について]

WebEDIや手続きサイト等の弊社Webサイトでは、2024年6月を目途にTLS1.0/1.1の暗号化通信無効化を予定しております。ご利用のブラウザ（Microsoft Edge、Google Chrome、Firefox）を最新化することで、TLS1.2の暗号化通信に対応いただけます。TLS通信の脆弱性に限らず、既知の脆弱性への対処がなされることでセキュリティ上のリスクも低減されますので、最新のブラウザバージョンをご利用ください。

なお、ご利用の通信ソフトウェア、OS環境の設定等でご不明な点がございましたら、通信ソフトウェアのベンダーまたは貴社システムご担当者様にお問い合わせください。

## FINE FINETの送付先等の変更について

今回、ご送付いたしております「FINE FINET (ファイン・ファイネット)」の宛名や部数の変更等がございましたら、以下までご連絡ください。

## 【連絡先】

株式会社ファイネット営業推進部 e-mail : [marketing-promotion@finet.co.jp](mailto:marketing-promotion@finet.co.jp)

請求書のお受け取りは  
弊社「手続きサイト(請求ダウンロードWeb)」をご活用ください!

## 【特長】

- 郵送よりも早く請求書を確認できます  
⇒ 請求ダウンロードWebでは、曜日に関わらず毎月2日の15時よりダウンロード可能
- 請求書のご用意が出来次第、メールでお知らせします  
⇒ 請求書の確認漏れや手続き漏れ等の抑止効果も期待できます  
※ 事前に手続きサイトにて通知メール設定が必要となります
- PDF形式の請求書に加えて、ご利用明細をCSV形式のデータファイルにてご提供



## 【ご利用方法】

請求担当者様用のIDにて手続きサイトにログインしていただくことで表示される「請求ダウンロードWeb」へのリンクメニューを選択してください。

手続きサイトURL <https://member.finet.co.jp/fts/userLogin/>

※ IDは登録時に請求書送付先のご担当者様宛にご案内しています

※ ID/パスワードが不明の場合は、ログイン画面右下「ID 再通知」「パスワード再発行」よりお手続き下さい

## 【請求書の郵送停止について】

ダウンロードの活用により請求書の郵送が不要になりましたら手続きサイトよりお申し込みください。  
手続きサイト: 申込メニュー ▶ 各種お申込み ▶ ファイル申込 ▶ 請求書郵送停止申込

## 【お問い合わせ先】

ファイネット ヘルプデスク  0120-091-094 (年中無休7:30~23:00)

なお、弊社ではお支払方法として「預金口座振替」が選択いただけます!  
この機会に、こちらも是非ご検討ください。

## 【ご利用のメリット】

- 口座振替時の手数料は弊社が負担します(銀行振込時の手数料はお客様負担)
- 月々のお振込手続きが不要となり、業務の簡略化が図れます

## 【支払方法変更のお申し込み方法】

手続きサイトよりお申し込みください。

手続きサイト: 申込メニュー ▶ 各種お申込み ▶ 郵送申込 ▶ 支払方法変更申込

(口座振替をお申込みの場合、同一様式にて郵送停止も同時にお申し込みいただけます)



FINE FINET (ファイン・ファイネット)

Vol.63 2023 September 2023年9月1日発行

[発行](株)ファイネット 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-9-1 日本橋三丁目スクエア6階  
TEL.03-5204-2600 [編集・発行責任者] 久我 章良



<https://www.finet.co.jp>

